



私のネクストステージ

—退職者への質問状— Vol.44



「眼下に海を臨む住まいは自分のライフスタイルに合っていて満足していますが、近年の大型台風やゲリラ豪雨など自然の脅威も感じています」

元松原市職員 **岩元 秀樹さん (65歳)** 平成28年定年退職

【いわもと・ひでき】昭和53年に大阪工業大学を卒業後、建設会社勤務を経て、昭和55年大阪府松原市に入職。都市整備部開発事務所、都市計画課、まちづくり推進課、都市整備部等に配属。平成28年に定年退職後、再任用職員として道路事業等の用地買収を担当。令和2年から地域おこし協力隊として活動している。

地域おこし協力隊だからこそ 見えてきた地域の姿と 築けたつながり

——岩元さんは和歌山市にある海沿いのまち・加太^{かた}地区で地域おこし協力隊として活動されているようですが、出身地でもない加太に興味を持たれたきっかけは何だったのですか。

ウインドサーフィンと釣りが趣味で、35年くらい前から加太の浜に通うようになったのが、そもそものきっかけでした。週休2日制が導入されて以降、週末は海のそばで暮らそうと加太に土地を購入し、小さなログハウスを建て、二拠点居住を始めました。春から秋にかけての週末はおおむね月3回のペースで加太へ通い、趣味中心の生活を送っていました。

——退職後のプランは、どのように描かれていたのですか。

再任用期間が終了するまでは二拠点居住を続け、その後は加太へ移住し、週のうち数日は周辺で仕事をし、あとは釣りやカヌーなどの海遊びをして暮らす……というような生活プランを考えていました。

——そのような中、なぜ、地域おこし協力隊に応募しようと思われたのでしょうか？

たまたま目にした「加太まちづくり株式会社」のホームページで、地域おこし協力隊の募集を知ったのがきっかけでした。仕事内容は「加太地区内の空き家を起業や移住、定住を希望している方に紹介し、地域の活性化を図る」というもので、現役時代に携わってきたまちづくりや用地買収に伴う不動産取引の経験が活かせると思ったんです。

もう一つの理由は、30年以上加太に通っていたにもかかわらず、加太のことをほとんど知らなかったもので、もっと加太を知り、加太のために少しでも貢献できればと思って応募しました。

——現在、地域おこし協力隊として具体的にどのような活動をされていますか。

主な活動は、空き家の紹介とそれに関わる事務処理などです。

具体的には、利用可能な空き家を見つけ、所有者さんの了解を得られたら、その空き家を預かり物件として、起業や移住、定住を希望する方に紹介しています。

現在、空き家を紹介するホームページが工事中のため、和歌山市役所を通じて物件案内希望の連絡が入ります。それを受けてこちらから直接、希望者さんに連絡を入れ、希望内容を聞いた上で日程を決め、現地で物件案内を行っています。

所有者さんと購入希望者さんのマッチングが成立すれば、土地家屋調査士や司法書士とも連携して土地の境界や所有権移転等について両者をサポートしますし、町会の皆さんへの紹介も行っています。

——活動する際、大変なことは何ですか。

地域おこし協力隊は、地元町会が中心となって設立された加太まちづくり株式会社^{株式会社}に所属していることもあり、町会長さんたちへの対応はスムーズに行うことができます。それでも移住してから地域になじ

加太春日神社の茅の輪作りにも参加しました



地域にも知り合いが増えてきました。
加太名物よもぎ餅の店主と



加太湾は大物の魚が狙える釣りのメッカ



希望者に物件を紹介しマッチング。
定額制シェア別荘「SHARE BESSO ? ツキノイツカ」のオーナーと



希望者に物件を紹介しマッチング。
物件を購入され、現在リフォーム中です



加太湾に沈む夕陽を眺めていると癒されます

加太は海と山に囲まれた地域のためか、建物が密集し、再建築は不可能と思われる狭い道が続きます。地域おこし協力隊の活動では、二地域居住の時には歩いたことさえなかった路地裏を歩き、空き家の多さに驚き、管理不十分な危険空き家に危機感を覚えます。一寸見で古き良き港町の風情と感じていたところが、地域おこし協力隊の視点から見れば気になるところが多々出てきました。特に下水道

ままでには時間がかかり、今、地元の行事などにも参加しているところです。
——地域おこし協力隊としてやりがいを感じられるのは、どのような時ですか。
やはり、所有者さんと購入希望者さんのマッチングが成立した時に、一番やりがいを感じます。
——活動の中で、現役時代のキャリアはどのように活かされていますか。
学生時代から不動産取引には興味を持っており、宅地建物取引主任者の資格も取得しています。また、現役時代、役所で都市計画道路事業や用地買収交渉に取り組んできた経験は、現在の仕事に十分に活かしていると感じています。
——地域おこし協力隊の活動を始められたことによる、ご自身の変化を教えてください。
二拠点居住での地域の見方や関わり方と、地域おこし協力隊活動でのそれとは、まったくの別物だと知りました。

の未整備は、空き家を紹介する際、不利な条件だと感じています。
地域との関わり方の変化としては、伝統行事である葛城修験や加太春日神社の茅の輪作りをはじめ、地元の会合へも積極的に参加するなど、二拠点居住の時には考えられなかった体験をしています。
——今後やりたいことはありますか。
地域おこし協力隊としての活動ももうすぐ1年を迎え、主な活動である空き家の紹介については、ある程度軌道に乗ってきたように思います。残りの活動期間では、空き家の紹介に加えて、加太地区内の空き家管理システムを、加太まちづくり株式会社と共同で構築できればと考えています。
——最後に、30代〜50代の読者に向けてメッセージをお願いします。
定年退職した時は、まさか自分が地域おこし協力隊の活動をするとは夢にも思っていませんでした。65歳からの挑戦の結果がどうなるか、まだわかりませんが、今は地域おこし協力隊の活動により、充実した生活を送っています。よく言われることですが、新しい事への挑戦に年齢は関係ないと実感しています。現役世代の方もシニア世代の方も、挑戦という気持ちをお忘れないうちにしましょう。ただし、無謀な挑戦はダメですよ……。

——お話をいただき、ありがとうございました。